

1. 事業概要

・ 区 間
岩手県宮古市松山
～青森県八戸市根城

・ 経緯
H23.7.1 : 三陸沿岸道路が通る概ねの範囲の公表と意見募集
H23.8.5 : 三陸沿岸道路が通る概ねのルート及び出入口の位置の公表と意見募集
H23.8.30: 三陸沿岸道路ルート決定公表

・ 地域の要望等
H23.5.19: 三陸沿岸都市会議及び岩手県沿岸市町村復興期成同盟会が「宮古市～洋野町」間を含む三陸沿岸道路の早期開通を国土交通省に要望
H23.6.29: 岩手県知事より「宮古市～洋野町」間を含む三陸沿岸道路の早期開通を国土交通省に要望

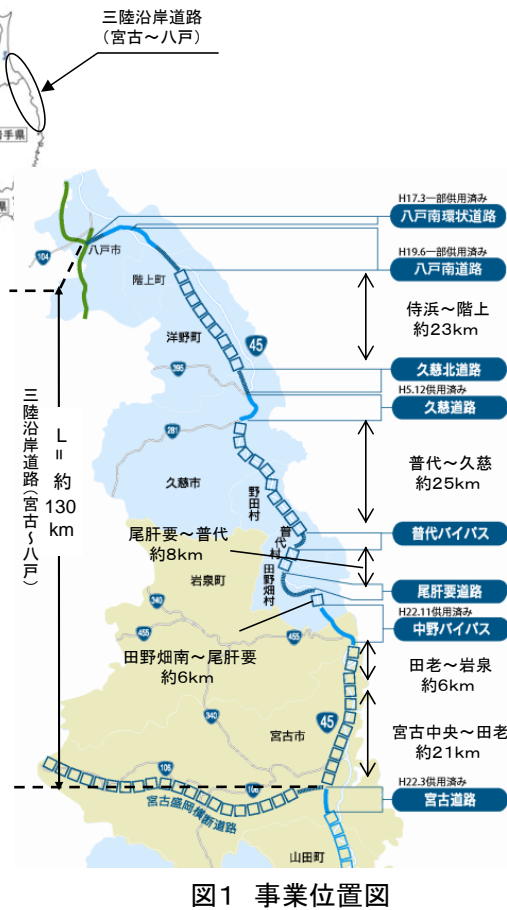


図1 事業位置図

○ 住民生活
【救急医療施設への速達性向上】
・沿線の三次救急医療施設は久慈市、八戸市のみであり、高次医療施設への速やかな搬送ルート確保が必要不可欠(図3)

【他交通機関への利便性向上】
・沿線地域から広域交通拠点である空港等への時間距離が大きく、連絡性向上が課題

○ 地域経済・地域社会等
【周辺市町村との連携強化(隘路の解消)】
・宮古市～久慈市間、久慈市～八戸市間は高速道路が不連続であり、現道区間は線形不良箇所などにより地域間の連携に支障をきたす

【産業拠点の分断防止】
・震災からの復旧・復興のため地場産業の復興及び雇用の創出が不可欠
・三陸沿岸地域は水産業が基幹産業であるため、津波による甚大な被害からの復興が急務(図4)
・八戸港から1日に600千トンの石油類が三陸沿岸北部地域に輸送されるため、石油供給の大動脈を担うネットワークの強化が必要(図5)



図3 三次救急医療60分カバー圏

2. 必要性の評価

(1) 課題の整理

○ 防災・災害時の救助活動等
【緊急物資の円滑な輸送の確保】
・東日本大震災では、津波(地域最大29.6m)により壊滅的な被害を受け、現道は瓦礫等により寸断(図2)
・近傍に災害時に機能する迂回路がなく、現道の寸断により宮古市・岩泉町等複数の地区で孤立

【減災対策への取り組み】
・宮古市等において津波襲来時に避難路、避難施設が僅少



図2 寸断された国道45号 (宮古市田老町 国道45号)

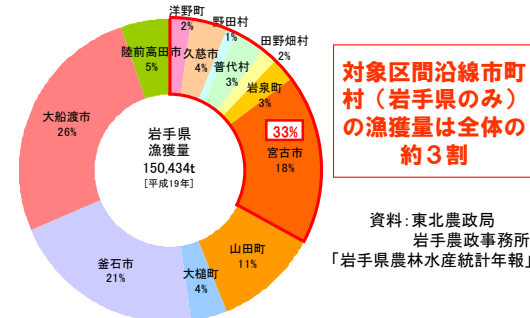


図4 岩手県総漁獲量

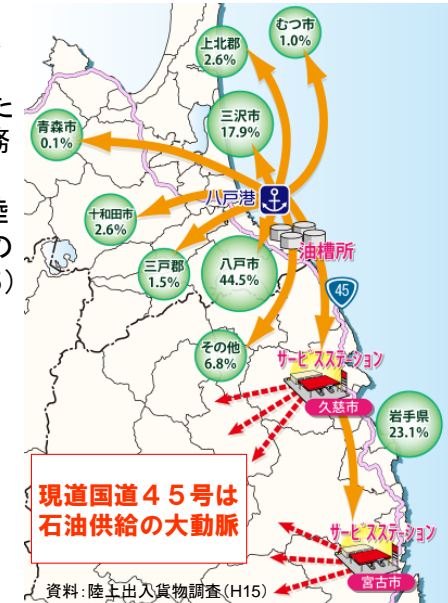


図5 八戸港からの石油製品の方面別輸送状況

(2) 事業の必要性

東日本大震災からの早期復興の支援、孤立防止など津波に強い地域づくり、広域的なりだんだんシーの確保、平常時も含めた救急搬送圏の拡大のための速達性確保といった様々な課題に対応するため、本事業の実施が必要である。

みやこはちの 三陸沿岸道路(宮古～八戸)に係る新規事業採択時評価

3. 有効性の評価

■ネットワーク上のリンクとしての防災面の効果

①主要都市・拠点間の防災機能【評価:◎】

●宮古市～久慈市、久慈市～八戸市の評価

	耐災害性	多重性
A	あり	あり
B	あり	-
C	なし	あり
D	なし	なし



図6 主要拠点間連携イメージ

現況	(目標) 整備後	評価
D	(B) B	◎

②ネットワーク全体の防災機能【評価:◎】

・災害時における、当該リンク周辺の市町村から、県庁所在地(盛岡市)や隣接市町村等までの、通常時と災害時の到達時間の遅れの程度(弱点度)及び改善の程度

区間	弱点度(整備前)	弱点度(整備後)	改善度
宮古中央～田老(宮古～岩泉)	当該リンクが津波により遮断され不通(∞)	通常時に比べ0.6倍の時間を所要	当該リンクの整備により不通が解消(∞)
田老～岩泉(宮古～岩泉)	当該リンクが津波により遮断され不通(∞)	通常時に比べ0.6倍の時間を所要	当該リンクの整備により不通が解消(∞)
田野畑南～尾肝要(田野畑～普代)	通常時と変わらない	通常時に比べ0.8倍の時間を所要	整備前後で所要時間が0.8倍に短縮
尾肝要～普代(田野畑～普代)	当該リンクが災害により遮断され不通(∞)	通常時に比べ0.9倍の時間を所要	当該リンクの整備により不通が解消(∞)
普代～久慈(普代～久慈)	当該リンクが津波により遮断され不通(∞)	通常時に比べ1.2倍の時間を所要	当該リンクの整備により不通が解消(∞)
侍浜～階上(洋野～階上)	通常時に比べ1.6倍の時間を所要	通常時に比べ1.4倍の時間を所要	整備前後で所要時間が0.9倍に短縮

■当該事業による効果

○防災・災害時の救助活動等【評価:◎】

【緊急物資の円滑な輸送の確保】

・救援物資輸送の拠点となる三沢空港～久慈市間や久慈港～宮古市間の連絡時間を短縮。(図7、図8)



図7 緊急支援物資受け入れに久慈港へ入港する「白山」

【減災対策への取り組み】

・津波浸水時は、避難路や避難場所として活用
・浸水域を通過する箇所には避難階段を設置

○住民生活【評価:◎】

【救急医療施設への速達性の向上】

・三次救急医療施設の60分圏域が拡大(図8)
・負傷者受け入れの拠点となる県立久慈病院、県立宮古病院、八戸市立市民病院への救急搬送の速達性が向上(図8)

〔田野畑村～県立宮古病院:54分→30分(24分)
洋野町～県立久慈病院:40分→25分(15分)
洋野町～八戸市立市民病院:36分→23分(13分)〕

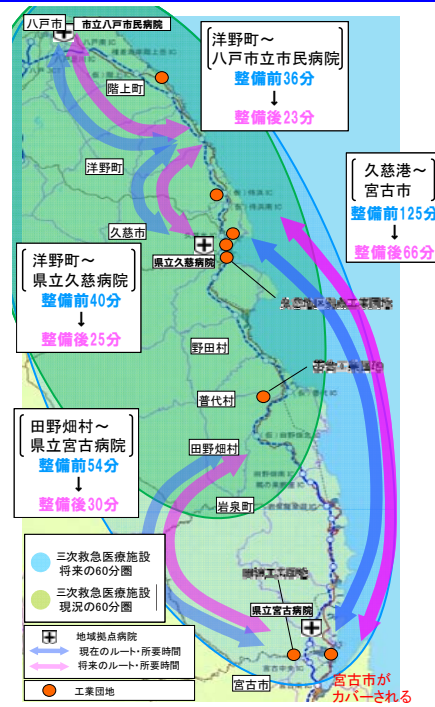


図8 拠点間の連絡時間

・避難所や防災拠点施設付近にICを設置し、緊急時の救助・救援活動を強化
〔宮古市山口周辺にICを設置し、宮古病院へのアクセスを強化〕

○地域経済・地域社会【評価:◎】

【産業拠点との連絡性向上】

・落合工業団地(普代村)、久慈地区拠点工業団地(久慈市)等との連絡時間を短縮し、新規の企業立地の促進が期待される
〔久慈港～宮古市:125分→66分(59分)〕

【周辺市町村との連携強化】

・高速道路が連続するとともに、宮古市～八戸市の規制速度は40km/h～60km/hから70km/h～80km/hと改善し、各地域の広域的な連携に貢献

(3)事業の有効性

・当該事業の実施により、ネットワーク上のリンクの評価がDランク→Bランクに改善し、防災機能が強化される。
・孤立箇所の削減など津波への適応性が改善するとともに、速達性の向上により救急搬送の改善や地域間の連携が促進され、三陸地方全体のリダンダンシーの向上につながるなど、優先度の高い事業と評価する。

4. 事業化する区間の延長、構造規格等

区間	概略延長(km)	構造規格	設計速度(km/h)	事業費(億円)	B/C	
宮古中央～田老	21	1種3級	80	1,210	1.5	1.4 (宮古～八戸)
田老～岩泉	6			470	1.2	
田野畑南～尾肝要	6			360	1.0	
尾肝要～普代	8			360	1.1	
普代～久慈	25			1,140	1.2	
侍浜～階上	23			880	0.9	

みやこはちのへ
三陸沿岸道路(宮古～八戸)に係る新規事業採択時評価

【平面図】



みやこはちのへ
三陸沿岸道路(宮古～八戸)に係る新規事業採択時評価

【平面図】

